

## 半田・瀧上工業

橋りよう建設などを手掛ける「瀧上工業」（半田市神明町）は、区画整理に伴って手放した所有地から出た伐採木を活用し、積み木などの木製玩具を作った。市内の保育施設に配られ、同社は「木から再生した玩具で遊んでくれたら」と期待する。（山岸弓華）



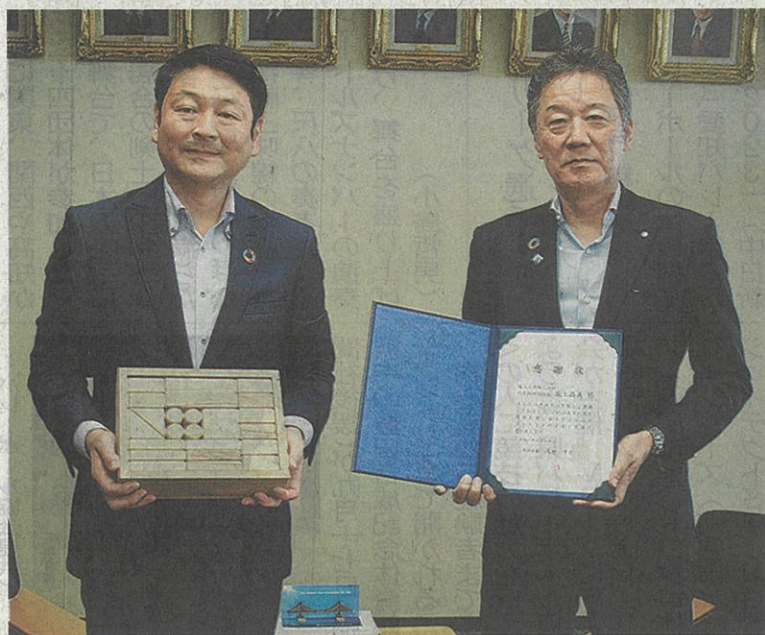
完成した積み木と立体パズル

# 区画整理で伐採 → おもちゃに

## 積み木、立体パズル 保育施設に配布

JR武豊線連続立体交差化事業に伴って同社は三年前、本社近くに所有する約二千六百平方メートルの緑地が収用対象になった。社員が植栽したクスノキやドングリの木などが育っていたが、伐採されることに。国連の

持続可能な開発目標「SDGs」にも取り組んでいるため、「そのまま廃棄するのはもったいない」と活用を検討。近くに協和保育園があることから、子どもたちが遊べる木製玩具を作ろうと思いついた。



製作は市内の家具会社「ハンモック」に依頼。木材の乾燥、研磨などの工程を経て、積み木と明石海峡大橋を模した立体木造パズルが完成。市内の保育園や子ども園、幼稚園など二十三方所に配布する。

瀧上晶義社長が九日、市役所を訪問し、玩具を久世孝宏市長らに披露した。瀧上社長は「木を処分するのはしのびなかつたので、このような形で再生できうれしい。子どもたちが遊び、創造力を高めてくれれば」と話した。久世市長は「何か貢献できないかと考えてくれたことをありがたく思う。積み木に込められた思いも、子どもたちに伝えていけたら」と感謝した。

玩具を寄贈し、久世市長から感謝状を受けた瀧上社長。いずれも半田市役所で